

第三節 自然災害

平成一六年は七月の梅雨前線豪雨や八月の集中豪雨、七月から八月にかけて台風一〇号、一一号、一五号、一六号、一八号、九月には台風二二号、一〇月には台風二三号、二三号が相次いで上陸した。平成一六年に日本に上陸した台風は一〇個となり年間の最高上陸数を記録した。

また一〇月二三日には、阪神淡路大震災以来の震度七を記録した新潟県中越地震が発生するなど、全国各地で自然災害による大きな被害が発生。過去五か年と比較して最も多い被害報告額となった。

財田町でも、国道三三二号線が三か所で土砂崩れにより通行止めとなるなど、道路や河川で災害が発生、また農産物への被害も発生した。同年の水防本部の設置回数は九回に及んだ。

平成一六年発生災害と被害額

河川	六件	一〇、一三五千円
道路	一二件	二九、四三〇千円
橋梁	一件	一八、五〇六千円
計	一九件	五八、〇七一十千円
農業用施設	二二件	四三、六三五千円
農地	二三件	二四、七五四千円
計	四五件	六八、四三四千円
林道	一三件	五七、一一〇千円
その他施設	一件	一七、〇一〇千円
合計	七八件	二〇〇、六二五千円

風水害

町内の風水害による主な被害は次のとおりである（平成三年以降）。

○台風七号通過直後の長雨（秋雨前線）被害（平成一〇年九月二四日～二五日）

平成一〇年九月二二日に香川県付近を通過した台風七号は県内に大きな被害を与えた。

この台風通過後も、秋雨前線の活動は依然活発で、九月二四日午後三時一〇分には大雨、雷、洪水注意報が発令されるほどであった。

財田町の降雨量は二三日午後八時から二五日午前一時までで二二四ミリ。この長雨により町道林線が土砂崩れにより通行不能となった。役場事業課では直ちに現地を確認。重機一台、ダンプ六台、人員約二〇名で崩落土砂を除

去。夜中の午前零時ごろ応急の復旧作業を終えた。

○梅雨の長雨に伴う被害（平成一一年六月二九日）

平成一一年六月二九日、梅雨の長雨に伴い町内では河川が増水したほか複数の被害があった。

本町の被害は財田上戸川の柿畑が崩壊。林道二か所（財田上塔重、財田中長野）が土砂崩れにより通行不能。町道も財田上山田井が土砂崩れにより通行不能となった。

渇水

香川県は降水量が少なく大きな河川がないため、昔から数年に一度は干ばつ、渇水の被害を受けてきた。香川用水の通水後は干ばつなどの被害は減ったが、都市人口の増加に伴い都市部の生活用水が増大、飲料水が不足をきたすなど新たな問題も起こっている。

○平成六（一九九四）年大渇水

平成六年の梅雨は空梅雨で、四国の水がめ「早明浦ダム」の貯水量は減少、その後も降雨が無く、取水量の削減率が次々と上げられたが、七月二五日には、ダムの水が底をつく状態となった。県内では、水道水を一日に五時間しか供給しない給水制限、プールの中止、牛乳だけの学校給食を実施した自治体も多くあった。幸いにも財田町は、このような事態には至らなかったものの、感情的配慮から学校及びB&G海洋センターのプールの中止を行った。

○平成一七年大渇水

平成一七年、四国地方は春先から雨が少なく、三月から五月までの降水量は平年の八〇割を下回った。特に徳島市は三七割、高松・多度津は四四割など東部地域で降水量が少なかった。

この傾向は六月に入っても続き、早明浦ダム上流域の六月の降水量は七四割と、平年の一九割しかなく、昭和五

○年以来最少を記録したのである。

早明浦ダムの貯水量は早々に取水制限の目安である六〇割ラインを割込み、夏期としてはダム運用開始来最も早
い六月一五日午前九時から取水量を二〇割削減する一次取水制限に入った。

取水制限は、貯水量の減少に伴って順次強化され、六月二二日から三五割削減する二次取水制限に、六月二八日
から五〇割削減する三次取水制限に入り、その後、わずかな降雨による緩和・強化を繰り返し、八月一日には七
五割削減する四次取水制限に入った。

その後も少雨状態が続き、八月一九日午後八時には平成六年以来一年ぶりに早明浦ダムの利水貯水量「ゼロ」
を記録した。同時に電源開発株式会社の協力のもとに発電用水の緊急放流が始まった。八月二〇日に降雨があり発
電用水の緊急放流を停止したが、九月一日に早明浦ダムの利水貯水量が再び底をつき、発電用水の緊急放流が再開
された。

その後、大型で強い台風一四号の影響で大雨があり、貯水率は、九月六日の一日で一〇〇割に回復、六月
一五日から実施していた取水制限は八四日ぶりに全面解除、渇水対策本部を解散した。

今回の大渇水においても財田町は、一一年前の平成六年大渇水のとくと同様に大きな影響を受けることなく終
わった。

○香川用水調整池

県内の慢性的な渇水状態の緩和と水道用水の安定的な供給を図るため山本町と本町の境に建設されているのが香
川用水調整池である。

調整池は流域面積〇・七平方キロ、貯水量約三〇〇万立方メートルのアースフィルダムで、平成二〇年度の完成を目指し

ている。

第四節 防 災

災害への備え

財田町では、火災や自然災害への備えとして、次のような器材資材・設備を整備している。

- (一) 財田町消防団
- (二) 消火栓 八八基
- (三) 防火水槽 四〇トン級 三五基
- 四〇トン級未満 一一基